

錦織監督

映画の現場から



●●43

「渾身」に熱いメッセージ

おかげさまで12日より映画「渾身」KONISHI N」が全国公開された。多くのお客さまにご来場いただいております。感激しています。全国から「渾身」の公式ホームページやフェイスブック、ツイッターにアクセスする人が急増しており、ウェブ上でも絆が生まれている。

多くの皆さんから熱いメッセージをいただき、あらためて隠岐の皆さんとの縁をかみしめている。隠岐在住や出身の人だけでなく、2回3回と見た方から見るたびに違ってみえるとの感想もいただいた。映画を見終わった後、誰かに話したくなるというところら



全国公開初日に山陰限定でプレゼントされた、琴世イラストポストカード

ウェブ上でも絆生まれる

く、今までにも増して口コミが広がっている。

モントリオール世界映画祭でもそうだったが、隠岐に行ってみたいという声も増えているようだ。隠岐の夏はもっとすごい、と全国キャンペーンで言っている。今年が楽しみである。「渾身」は来月初めまで全国上映される予定。意外と知られていないのだが、映画館は1カ月間の上映が基本。多くの観客が押し寄せると上映が延びていくのだ。気がつくとも上映が終わっていた、という経験は誰しもあると思う。お知り合いや親戚の皆さんにも呼び掛けて、できるだけ早くご覧いただきたい。隠岐の映画を、スクリーンで、ご家族でぜひ!

先日はNHKのラジオ、テレビで紹介していただき全国から反響があった。プロデューサーやディレクターが「渾身」だけでなく「RAILWAYS」「うん、何?」「白い船」も見てくれていたので、ぶれずにこの10年、抱き続けてきた思い(究極のローカルは、グローバルになりうる)というメッセージを島根4作に込めたという話をするこ

とができた。

世界の人人々の理想は犯罪のない安全な社会と暮らしやすい環境を手に入れることだと思ふ。そのために日々頑張っている。それが日本のローカルには残っている。日本人は既に世界からみたら奇跡的な社会を手に入れているといっている。鍵をかけないでいい家や、近所の人が勝手に冷蔵庫に魚を入れていく社会、そのまま飲めるのではと思うほどの清流や、大自然が残っていることこそが最先端だ。

出雲空港のターミナルを出た東京のスタッフが「空気がおいしい!」と言ったのを思い出す。草原じゃあるまいし、と思ったがよく考えれば、人口が少ないということとは環境が保全されているということなのだ。人口が少ないからこそ、水、空気が日本一きれいなところ。その恩恵で田んぼや川、海がきれいで、そこでとれる魚や農産物は日本一新鮮だ!と胸を張れるのだ。世界一の安全と環境があることこそ、理想の社会だと思ふ。

(錦織良成・映画監督)

第2、4金曜掲載